

ウラノス・エコシステム・先導／挑戦プログラム 申請書

■ 留意事項

提出いただいた申請書は、原則として非公表です。ただし、先導／挑戦プロジェクトとして選定された場合、記入いただいた申請内容や添付いただいた参考資料は、経済産業省HP等における紹介に使用させていただく場合がございます。万が一、申請書に記入いただいた内容や参考資料で公表対象外とすべき箇所があれば、「チ 備考欄」にてその旨お知らせください。

申請にあたっては、本申請書だけでなく、参考資料を添付いただくことも可能です。その場合は、各資料について参考資料番号を付すとともに、各要項（イ～ニ）で対応する参考資料番号を記載ください。

■ 募集対象に係る説明

イ	代表者に関する情報	氏名	古田 清人
		所属	CMPタスクフォース
		連絡先(メールアドレス)	furuta.kiyoto@mail.canon
		連絡先(電話番号)	090-2226-0920
ロ	プロジェクトの名称	Chemical and Circular Management Platform (CMP) 次世代製品含有化学物質・資源循環情報プラットフォーム	
ハ	プロジェクトの概要	近年、REACH規制等の世界的な化学物質規制強化、並びに資源循環の実現が喫緊の課題となっており、その対応に向け、産業界での業務効率向上への期待が高まっている。 本プロジェクトでは、化学物質・資源循環の情報伝達（CMP：Chemical and Circular Management Platform）を検討・構築する。このCMPでは、川上企業から川下企業までをシームレスに繋ぐ仕組みが実現され、規制変更の度に各社個別の調査を求められる、現状のバケツリレー型情報伝達で発生する負荷を軽減するとともに、製品・素材情報や循環実態の可視化を目指す。 対応する参考資料がある場合は番号を記載→ <input type="text"/> ※プロジェクトに関するウェブサイトなどがあれば、そちらも記載ください。	

■ 審査の視点に係る説明

ニ	サービスの明確化に関する説明	CMP構築にあたって、CMP-TFを構成し、2025年4月1日現在で60社・団体（化学品メーカー、川中メーカー、電気電子メーカー、自動車メーカー、システムベンダー等）が参画中。CMP-TF内でテーマ別WGを構成しサービスの目的・内容を検討した結果として、「1. 製品含有化学物質管理」を構築目的として定義した。また、将来的な拡張の方向性として2及び3の目的を設定した。 1. 製品含有化学物質管理：化学物質規制に対して迅速かつ確実な情報管理の仕組みを構築し、調査の効率化を実現すること 2. 資源循環：製品・部品・材料・化学物質情報に加えて、部品リユース・リサイクル材情報などの資源循環情報の共有を実現すること 3. グローバル連携：現在策定が進む国際規格の内容を盛り込み、グローバルに展開されている製品含有化学物質情報基盤との連携を目指すこと 対応する参考資料がある場合は番号を記載→ <input type="text"/> 1_CMP標準仕様書.pdf P.12及びP.24 ※なお、本要項への説明にあたっては、データ連携に係るシステム構成が分かる図表を参考資料として提出してください。
---	----------------	---

ホ	データ主権の確保に関する説明	CMPでは、データ主権に対する考え方として、データ提供者が「利用相手」、「利用条件」、「保管場所」の3つを以下の通り定めている。 1. 利用相手の決定：データ提供者が、指定した開示先以外には提供しないこと、またデータ単位で開示先を指定可能なこと 2. 利用条件の決定：データ提供者が、データ単位で登録・更新・削除を実施できること 3. 保管場所の決定：データ提供者が、データの保管場所を指定できること 尚、データ連携契約については、2025年10月設立予定のコンソーシアム等の団体において、定義していく予定。 対応する参考資料がある場合は番号を記載→ <input type="text"/> 1_CMP標準仕様書.pdf P.37 ※なお、本要項への説明にあたっては、データ連携に係る実際の契約書等を参考資料として提出してください。
---	----------------	---

ヘ	オープン性の確保に関する説明	2025年2月に、セキュラーエコミー情報流通プラットフォームにおける標準仕様書、ブロックチェーン技術ガイドラインが公表されている。標準仕様書の中で基盤事業者とAP事業者、利用者を定義しており、各事業者はコンソーシアムにより認定される想定。利用者には参加制限は設けない。 また、上述の標準仕様書、ブロックチェーン技術ガイドラインについては公表済みであり、今後更に、CMP-TFにおいてオープン性の確保に向けた利用検討を行っていき、特にサービス提供にあたっては2025年10月設立予定のコンソーシアム等の団体において、開示していく予定。 対応する参考資料がある場合は番号を記載→ <input type="text"/> 1_CMP標準仕様書.pdf及び2_ブロックチェーン技術ガイドライン.pdf
---	----------------	---

ト	関係者との積極的な連携に関する説明	CMPはサプライチェーン上のデータ連携の仕組みに関するガイドラインβ版（蓄電池CFP）との整合性を確認し、標準仕様書等の作成を進めている。 また、CMPはサプライチェーン全体で幅広い業種の関与が予想されるため、製品に含まれる情報を確実かつ効率的に伝達・共有するプラットフォームとして構築することが必要であり、今後リサイクル材の情報等のセキュラーエコミー情報（RMP：Recycle Management Platform）にまで拡張していくことを目指す。 対応する参考資料がある場合は番号を記載→ <input type="text"/>
---	-------------------	---

チ	備考欄	・令和5年度補正資源自律経済確立産官学連携加速化事業（セキュラーエコミー情報流通プラットフォームの調査・検証に関するオープンイノベーション事業※）において、ウラノス・エコシステムと連携したセキュラーエコミー情報流通プラットフォームを実現するための仕様の標準化の調査を行った。その
---	-----	---

中で、データスペースのアーキテクチャ設計については「ウラノス・エコシステム データスペース リファレンスアーキテクチャモデル Whitepaper」に沿って検討を行った。

※申請を行ったデータ連携の仕様が、「Whitepaper：ウラノス・エコシステム・データスペースズ リファレンスアーキテクチャモデル」に準拠している場合、申請を行った運営主体が、情報処理の促進に関する法律第28条に基づく認定を取得している場合は、その旨記載してください。